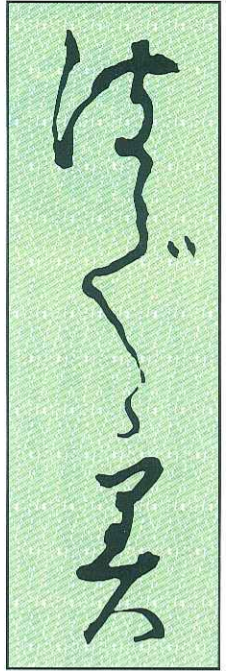


大分県PTA



発行所 大分市大字下郡496の38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 ☎(097)556-9055 http://www.oita-pta.com/ 責任者 富永大輔 印刷所 大分市六津北町4455番地の1 福大分出版印刷

ひきつける 大胆な見出し

第33回 大分県 PTA広報紙 コンクール



和やかにすすむ編集会議(鶴岡小広報部)

第33回大分県PTA広報紙コンクールに、県内の小・中学校より1355点の応募があり、4月2日の審査会で49点が入賞した。表彰式は4月16日、県教育会館で行われ、94名が出席した。

県知事賞に 広報 つるおか 佐伯市立鶴岡小学校PTA



http://www.oita-pta.com/

おめでとうございます 第33回 大分県PTA広報紙コンクール入賞校P(育友会)

- 県知事賞 「広報 つるおか」 鶴岡小(佐伯市)
県PTA連合会長賞 「育友会会報 鶴谷」 鶴谷中(佐伯市)
県中学校長会長賞 「会報 みくま」 三隈中(日田市)
県広報教育研究会会長賞 「臥牛の丘」 杵築小(杵築市)
大分合同新聞社賞 「かんざき」 神崎小(大分市)
OBS賞 「ささむた」 寒田小(大分市)
TOSテレビ大分賞 「ふたば」 大在小(大分市)
大分朝日放送OAB賞 「新しんぶう風」 箕栗小中(大分市)
優良賞(順不同) 駅館小(国東市) 附属小(吉野小) 附属中(大分市) 佐伯城南中(佐伯市)
四日市南小(宇佐市) 明野東小 松岡小 西の台小 下南小(臼杵市) 三重東小(豊後大野市)
朝日小 南大分小 滝尾小 千怒小(津久見市) 威宜小 日隈小 光岡小(日田市)
南立石小 森岡小 種田小 原川中 大在中 由布川小(由布市)
中部中(別府市) 津留小 原川中 大在中 由布川小(由布市)
国東小 三佐小 大分西中

表彰の後、帆足三郎審査委員長は「今年には出来上りがよく、レベルが上がっている。紙面がいよいよきまぎらわしく、見出しも大胆なものが多かった。レベルの向上 全体的に」

審査員 帆足 三郎(委員長) 大分合同新聞文化センター 元顧問
安部 崇夫 大分県広報教育研究会会長
岩尾 淳一 大分県PTA広報紙「はぐく美」顧問
浦辺 裕二 大分県教育庁教育改革・企画課総務・広報班課長補佐(総括)
富永 大輔 大分県PTA連合会長 (敬称略)

引き継ぎと 団結力が鍵 県知事賞受賞の鶴岡小学校 戸高房美広報部長は「部員の協力のおかげと感謝している。特に力を入れたのは部会の雰囲気作り。世間話の中からアイデアが生まれることが多かった。部員同士のつながりも深まった」と喜びにあふれた笑顔で語った。

お知らせ 第33回PTA広報紙コンクール 優秀広報紙縮刷版 県内の各小・中・特別支援学校に1冊贈呈します。1冊1,000円で縮刷版を販売します。ご希望の方は、県PTA事務局までお申し込み下さい。 大分県PTA連合会事務局 (097) 556-9055

閉会後、会場では他校紙を熱心に見たり記念撮影をする姿が多くあり、受賞の喜びと笑顔があふれていた。



講評に聞き入る参加者

長のアドバイスもあった(種田中)と広報紙作りの秘訣を聞かせてくれた。 引き続き広報部を受け継ぐ人が多い(鶴谷中)「年間企画やレイアウトを読み易い形にすることを心がけた。写真をうまく使って文字ばかり載せないように気をつけた。テーマについては前年度の部...

審査方法・基準 5人の審査員が1人10点の持ち点で1次審査。集計をもとに審査員の協議による2次審査で各賞を決定する。(基準) ①読みやすく、わかりやすく、すっきり ②年間のシリーズ物、企画物があるか ③広報紙の特色(運動会等の扱い) ④写真のバリエーション、トリミング ⑤地域の特色が出ているか ⑥レイアウト、見出し、カットの整理力 ⑦誤字・脱字がないか 尚、入賞紙のうち10枚が「全国小・中学校広報紙コンクール」に出品される。



紙面に見入る審査員

リミシング(不必要な所を取り除く)の工夫を。 引き続き広報部を受け継ぐ人が多い(鶴谷中)「年間企画やレイアウトを読み易い形にすることを心がけた。写真をうまく使って文字ばかり載せないように気をつけた。テーマについては前年度の部...

寸研心北 県の本年度の小学1年生は1万3千人、中学1年生は1万676人(引現)とか。 1万676人(引現)とか。 合わせて2万6799人の新1年生の夢、願望、努力目標を「漢字一文字」で表わしたらどんな結果になるだろう?そんな児童生徒の新年や新学年に対する決意を発表する「全国夢一文字コンテスト」の第2回があった。主催は「伝統文化や日本の文字や言葉を大切に育てる」との育成と地域の活性化を図る「活動を目的とする国東半島あいらルネサンス連盟」今回は県内外から19市郡、小中84校、540名(前回200名)の応募があった。展示(2/2) 表彰式(2/2)は大分航空ターミナルであり、盛会だった。応募一文字ベスト5。友(25)、努(22)、笑(19)、夢(14)、進(13)。以下、気、楽、新、勇、花。どの字にもその思いの丈の理由がある。学という字を選んだ理由は今年色々なことを学びたいと思ったからです。ほかの大会はただ字を書くだけで、この大会は自分で一文字を考えて、しかもその一文字を選んだ理由も書くというので大変おもしろく、頭を使うコンテストだと思えました(会長への礼状から)。特別賞受賞者、高知市旭東小2年小笠原瑞紀。今年から中学生です。新しい自分を発見し、自分の可能性を広げていく一年生にしたいので「新」という一文字を書きました(同、大分市滝尾小6年樽結香莉)。県下はもとより全国の希望と夢にもえる小学生のみならず、夢一文字ベスト5で綴る私の祝福。友を大切に、努力をし続け、笑顔忘れず、夢に向かって、つき進む楽しい学校生活を送ってください。(第一回より県P連も後援しています)

PTA研究大会中津大会

育つ子どもをもとめて

第18回大分県PTA研究大会中津大会が2月27日(土)開催され、県下より会員を中心に約600名が参加。
「21世紀は心の世紀、信じて子どもたちを！子育ての主役は私たち羽ばたくのは子どもたち」のスローガンのもと、中津文化会館と他1会場で行われた。
午前中の「歴史散策」に続いて、午後からの全体会、分科会で討議や意見交換が行われた。

全体会

開会式で富永大輔県PTA連合会長は「社会全体が大きく変貌する今、進むべき道を明確にすることが求められている。教育を取り巻く環境も様々に改革がなされ施策が講じられている。私たちの願いは、子どもたちがたくましく成長し、社会に貢献できる若者になってもらうことである。青少年の輝かしい未来を約束するため、諸行事の展開に努力している」と述べた。
続いて、小矢文則県教育長(代理)山田修治県教育庁教育次長は「知・徳・体の調和のとれた心豊かな子どもたち



あいさつする井堀仁智実行委員長

第1分科会 家庭教育 食育をきっかけに

地域組織づくり

「時代環境に対応出来るPTA活動」をテーマに210名が参加して討議された。
今井登美子中津市立中津中学校PTA副会長は「地域と連携した食育活動、昔ながらの献立のよさを見直し親子で取り組む食育の活動」と題し発

第18回大分県PTA研究大会開催に先立ち、参加者に今回の開催地中津市を知ってもらおうとオプショナル企画「歴史散策」が行われた。
中津の郷土史を語る会より秋満吉四郎さん、松田浩子さん、奥永美知子さんの3名のボランティアガイドの方々を中心に3班に分かれ、中津文化会館を出発。はじめに筑紫亭にて宇佐特攻隊の話聞いた後、寺町で合元寺が赤壁であること



説明に耳を傾ける参加者

昔料理で伝える 家族のきずな

取り組むを行う中で広域になった中津市PTA連の相互のコミュニケーションも密になり、農協や漁協を始めとする地域の様々な団体とも連携が深まり今後もきずなを築いていくと報告した。
討議では、食育に対する地域や保護者の関わり、連携について意見交換が行われた。
山本一秀中津市立東中津中学校校長は「食は生きる基本であるが、今その基本が満たされていない子どもが多い。中津の昔ながらの料理を作ることで家庭の食育につながる出発点になる」と指導助言した。

第2分科会 健全育成 共に話せる話題づくりを

目指した活動

「家庭、学校、地域の連携を深めるPTA活動」をテーマに158名が参加し討議が行われた。
でも子どもたちの心の成長を期待する声が多かった。しかし、保護者同士のつながりが希薄になっており、この状況を変えるため新たな共通認識を作っていく必要があると考

身近なことから 広がる会話

次に、古川里美別府市立山の手中学校PTA副会長は「親子のコミュニケーションを高める家庭の工夫」と題し発表。「時代の流れの中で親

共に向き合い 学び合おう

神部理佳中津市立小楠小学校PTA副会長は「親子で話せませんか? いじめのこと、新たな共通認識作りの取り組み」と題し発表。「子どもたちの間で悪口やからかいなどに起因するトラブルが目立つ傾向にある。保護者のアンケート

高めよう 地域の「協育力」

次に、居塚加奈子日出町立大神小学校PTA研修部副部長は「家庭、学校、地域の連携を深めるPTA活動」地域での協育力を高める活動」と題し発表。「校区では伝統的に子どもたちの成長を育んできた地域であり「地域の協育力」の核はPTA活動にあると考



うさぎのいる風景

健康・望ましい生活習慣について考えるきっかけとなるよう継続していきたい」と報告。
討議では、参加人数・方法の質問のほか「地域の方を講師に地魚調理教室をした」「漁業組合と協同で水産教室を行って」との意見交換が行われた。
馬場尚登県教育庁社会教育課社会教育主事は「さまざまな食育の取り組みを親として家庭でどのように取り組み、今後さらにどのように広めていくかが課題ではないだろうか」と指導助言した。
内納國明中津市立小楠小学校長は「PTA、学校が連携したこの取り組みをぜひ中学までつなげてほしい。いじめは絶対に許し難いことであり早期発見、予防が大切である」と指導助言した。

の参加者を増やすため「二部一工夫」をテーマに各専門部で取り組んだ。指導部は水泳教室の参加対象の幅を広げ、広報部は広報誌に行事への参加の一文を追加するなど、各部の名案を出し合い成果を上げることができた。地域においても地区運動会などで、多くの方々と親睦を深め、たくさんの方々の喜びを得ることができた。地域の人の含め、保護者を引きつける魅力あるPTA活動に今後も取り組んでいきたい」と報告した。
討議では、行事への参加率の関心が強く、それについての討議が深まった。
向智草県教育庁社会教育課社会教育主事は「地域への伝統芸能への参加、運動会など学校と家庭が協力しつづける行事を行うことで、子どもたちの体験が喜びとなっている。子どもたちの成長を見守っている行事となるよう、これからは協力していくことが必要」と指導助言した。

第18回大分県

時代の中で

第3分科会 健康  
子どもたちに食を  
考えさせる活動へ

「食育等の推進で心身の健康を促進する活動」をテーマに約120名が参加し討議。

手作り弁当で学ぶ  
食の大切さ

日隈武治玖珠町立玖珠中学校PTA会長は「弁当作りを通して、食を考えさせるPTA活動」と題し発表。「弁当の日」の取り組みは今年度で2回目。いかに食の大切さを理解してもらえるかという課題も出てきた。そこで①栄養バランスに視点をおいた食育講演会（親子で学習）の開催。②給食試食会で保護者に食の大切さを発信。③広報誌で弁当の日の様子を紹介、などを実践の気持ちや栄養面に関心を持つなど、子どもたちの意識が



討議を深めるために...

変化。また、献立作りや材料の買い物を一緒にすることで、親子のコミュニケーションも深まっている。学校の協力でもさらなる内容の濃い取り組みとなった。今後も家庭と学校で協力しながら、子どもたちに食の大切さを伝えていきたい」と報告した。

討議では「食育として弁当作りを取り入れたい」などの意見が出た。三池修中津市立豊陽中学校長は「アンケートで生徒・保護者の意識を把握し、それをきちんと活動に生かしている。手作り弁当は親子のコミュニケーション、栄養などがつまみになった玉手箱。これからも、継続して子どもたちに考えさせる場面を」と指導助言

した。次に関野美香由布市立川西小学校PTA保健環境部長は「手をつなぎ、思いをつなぎ地域みんなで感性豊かな川西っ子を育てよう」食育への取り組み「と題し発表。「昨年度よりあいさつ運動に取り組みしているが、元気に挨拶するには食生活が大切と考えた。アンケート調査で実態を把握し、講演会で保護者が研修。学年部の取り組みに食に関する活動を取り入れ、学年毎にテーマを決めた。子どもたちが育てた野菜を使ったおやつ作りや名人を招いてのそば打

食育は家庭と  
学校の連携で

ち体験。また、親子で調理する前に食に関する読み聞かせなどを行い、子どもにも考えさせる工夫をした学年もある。親子ともに食への関心・知識が高まり、食生活を考えるよい機会となった」と報告した。

「活動後の子どもたちに変化はあったか」の質問に「食への興味や親子の会話が増えた」と答えた。渡辺文人県教育庁体育保健課指導主事兼主幹は「子どもに年齢に合わせた取り組みがよくできている。保護者と学校の協力の成果と言える。食育には栄養士だけでなく、保健師や医師などの専門家にも連携を広げると、さらによいのではないかと指導助言した。

が多くなくなった」と報告した。討議では「参加していない家庭や父親が参加するにはどうすればいいのか」、「活動を通して子どもへの反応はどうだったか」など質問が出された。

（保護者・OB・先生方の有志で構成）は、「すべては子どもたちのために」をモットーにPTAや学校と連携して活動。そのひとつ「たあのもーい!!」は、いろいろな部活動を訪れ、現役の部活生に真剣勝負を挑み戦うという活動。直接的なかわりを持つことが難しい年代の中学生と、親睦を図っているこのユニークな活動は今、注目を集めている」と報告した。

第4分科会 教育問題  
学校教育・地域教育で育つ  
おだやかな心

「環境の変化に即応出来る活動の推進」をテーマに122名が参加し討議。

学校に送り出す時に、ハイタッチ（1学年）をしたり、家庭学習の「〇つけ運動」（2学年）、夏休みを利用して「一緒にする家の仕事」（4学年）などに取り組んだ。機会をとらえて積極的な子どもとのふれあいの結果、これまで見えていなかった子どもの「よさ」がいくつも見えてきた。

また、取り組みの成果をPTA会員同士で話すうちに、知り合え子育てについて会話

か。へえーうちの子どもたちもリビングで勉強しているけど、そんな風を感じていなかったなあと思いました。「ただいま」とリビングの戸を開けると子どもたちがいて、私がおかしな顔でも話ができるということはお互い安心できる場だったんだなあ」と改めて思いました。いつか子どもが独立し家を離れる日が来るまでリビングで一緒にいられる時間を大切にしようと感じている今日この頃です。



まつだ じゅんこ 松田 順子 (東九州短期大学特任教授)

記念講演 (講演要旨)

未来へ伸びゆく  
次世代への贈り物

～もう一度 環境の見直しを～

まつだ じゅんこ 松田 順子 (東九州短期大学特任教授)

究極の子育ては自尊心を持つこと

世界の舞台に立つ人は、いきなり世界の舞台に立つてやれるわけではない。出発点は、小学校の運動会や体育の時間、県体や国体だったりする。小さなきっかけから強靱な「自分はやれる」という自尊心を培った結果だ。子育ても「自分は自分でいんだ」「一生懸命がんばるんだ」という自尊心を持つてすることが大事である。

変わってきた学習指導要領

健やかに育てるために預かる場所であった保育園。その3・4・5才児の保育と幼稚園の3・4・5才児の教育が同じものであり、小学校1年生に繋がるものである。そして学校教育は就職へと繋がっていかなくてはならない。また、道徳教育は一つの科目で済ませるのではなく算数や国語など各教科の中で、できる子ができない子に教えたり、相手の気持ちをくみながらクラスの中で楽しく学習するという様に学んでいく。

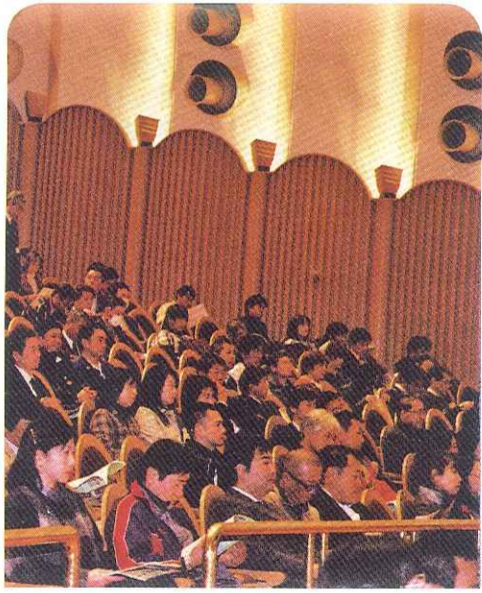
家庭・学校・地域 お互いに認めあう

子どもが育つ時にはいつも家庭・学校・地域がある。地域には商店街や神社、寺などがあり、昔は地域の教育力が高かった。家庭で

親は使命感を持って子育てをしよう

学校に行けば学校の先生が、保育園に行けば保育園の先生が育ててくれる。子どもを取りまく周りの人たちがその子の良さを引き出してくれるが、生活力・生きる力・人間力・人格などは親が育てるべきである。親は子どもを「生んだ」と思うのではなく「授かった」と思っ欲しい。「他の所にこの子は生まれてこないんだ」「私たち夫婦の間にしか生まれてこないんだ」と使命感を持って欲しい。使命感を持たないと文句ばかりになる。

プロフェッショナル 専門は、健康教育学、保育、育児学、幼児教育、スクールカウンセラーなど教育全般にわたる活躍中。平成21年7月から大分県教育委員に就任。



真剣に聞き入る参加者



子どもとの  
時間を大切に

私は今春から高2、中3、中1になる息子3人とも思春期真っ盛りですが、私と良い距離を保ちつつ成長していると思います。あるテレビの特集で最近の子どもにリビング学習をさせる親が増えていたとありました。リビング学習という言葉は初耳だったのでとても興味を持ちました。リビング学習をさせることで親の目が行き届き子どもも安心して勉強ができるようになります。周りで音がしても気にならず集中力がつく

国東市・姫島村PTA 連絡協議会 副会長 田城 まゆみ

# さあ来い! リスク。

安心のゴールキーパーでありたい。  
 リスクとトータルに戦う  
 総合保険ブランド[GK]  
 |クルマの保険|すまいの保険|  
 |からだの保険|生命の保険|



三井住友海上グループ  
 MSIG

三井住友海上火災保険株式会社  
 〒104-8252 東京都中央区新川 2-27-2  
 www.ms-ins.com

ネットワーク 16 報

村 PTA

(16は県下郡市等R連の数)

豊後高田市  
 会員数 1,671人  
 学校数 18校

## 豊かな自然と共に 実りある体験で心を育て

豊後高田市PTA連合会

豊後高田市は、全国でも有名な「夕日百選」にも選ばれたマテ貝が取れる真玉海岸や岬ガザミが美味しく夏には長崎鼻で海水浴客が賑わい宿泊体験活動ができる香々地青少年の家、そして富貴寺、熊野磨崖仏、真木大堂、川中不動といった仏の里。海にも山にも恵まれた豊かな自然が残るところです。

### すべてが手作りの食育

豊後高田市P連では、母親部の活動として毎年の講演会を実施してきました。しかしお話聞くのみのだけでは実践に響きあがらなかつたので、各単Pにて取り組んでもらいました。中学校では、お弁当づくりや魚のさばきかた教室、小学校では、田植え、稲刈り、もちつき、ピーナッツ栽培、ピーナッツ豆腐作りやそば栽培からそば打ち体験など各学校でして頂いたようです。



楽しく調理実習

母は生きていくということなので、まず菜園で育てたピーマンを収穫して、ふたつきのビンにピーマンをビンの半分まで入れ、小さじ一杯の砂糖かハチミツを加え、ふたをして良くふり冷暗庫で3日間ねかせます。酔母は生きていくことなので

2〜3日教室において子どもたちに毎日1回ふたをあけて声をかけてもらい育てました。次に生地作りです。当日は時間がないということでピーマン酵母を地粉の生地に練り込んだものをあらかじめ保護者の方に用意してもらいました。当日収穫したピーマンとナスはトッピングにトマトはソースに使用しました。はじめて包丁を使う子やうれしそうにトマトをつぶす子もいました。それぞれが生地をのばしいろんな形を作り焼きあげました。

今回このような形で実行していましたが、子どもたちが種をまき育てたものだったので何の抵抗もなく苦手で野菜を笑顔で食べることができました。今後も私たち母親が食に興味を持ち学校と連携を取りながら一緒に活動ができればと思っています。

豊後高田市PTA連合会  
 母親部長 豊田 有里

## 第25回 日中友好「少女少女の翼」

# 言葉と心 一つに結び

日P主催の平成21年度日中友好「少女少女の翼」が3月27日から31日の5日間にわたり実施された。両国の友好親善を深め、歴史、文化を学び、国際化社会の健全育成を図ることを目的に交流を続けている。今年も県内から2名の中学生が参加。感想を寄せてもらった。

### 心の交流

日出町立日出中学校  
 2年 宮部 はなか

私はこの旅で多くの事を学び、皆さんの貴重な経験ができました。最初は「みんなと仲良くできるか」とか「中国の人達との交流がうまくできるか」など色々不安でしたが、だんだんと班が団結して

### 中国の同級生

白杵市立西中学校  
 2年 山本 敦司

僕は、この日中友好少女少女の翼に参加できて本当に良かったと思います。全国の違う県から集まった人達ともすごく仲良くなり、皆さんの友達ができました。そして、みんなと話をしているうちに方言の違いにビックリしました。中国では、太極拳や水墨



### 反抗期 どう接したらいいの?

### 「もち味」を生かして

「ひろし君と、友だちみんなが下がってしまったので、のけものにされたように感じました」と、いうことでした。4人のうち、2人とは友だちであったし、何が原因かわからないと言って、考えこんでしまいました。

おかあさんは、このままにしておこうか、少し話しをしてみようか、迷っています。よし子さんのように、考え込んでしまう子や、じょうずにつきあっている子などいろいろなタイプの子がいます。「もち味」を生かした子育てを念頭に置いていますが、機会を逃がさず、改めて、一人ひとりの子どもを真ん中に据えたとりくみが大切だと思います。

みんなで考えるコーナー室長 岩尾 淳一



友情を深めた6日間



貴重な体験ができました

とても楽しかったけど、日程の忙しさでも疲れました。そして、最後は一番大事な中国の同級生との交流でした。中国の同級生は、英語がペラペラで中国語も英語も話せない僕はどうしたらいいのか分かりませんでした。でも、中国の同級生に日本語を話せる人がいたのでとても助かりました。

6日間の経験は一生役に立ち、一生の宝です。こんなに貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございます。

1面コラム欄は昨年度より引き続き「研北寸心」です

国東市在住  
 生年月日 昭12年4月5日

- 元大分市立南大分小学校校長
- NPO法人・県書連顧問理事
- 県美協名誉会員
- 財書道芸術院評議員・九州支局長
- 大分合同新聞文化教室講師
- 泰満書道館主宰

- 6月4日(金) 定期総会
- 6月18日(金) 幹部研修会
- 8月21日(土) 全単位PTA 会長研修会

県P連補償制度

- ・PTA安全補償
- ・自転車安全補償
- ・育英補償

お問い合わせは

- ☆保険請求先 (有)トータルアシスト 0120(112)357
- ☆制度全般について 大分県PTA連合会事務局 097(556)9055

編集後記

★今年度の「はぐく美」編集スタッフを紹介します。

樫山千鳥 三重野陽子(新)  
 高橋時子 戸上真由美(新)  
 (顧問) 岩尾淳一

- ☆編集委員も2名加わり新体制でスタートします。皆さんのご協力をお願い致します。
- ▼新年度、気持ちを切り換えひたすらがんばるのみ!
- ▼初めての新聞作り。思いを伝えることの難しさを痛感。
- ▼達成感あふれる笑顔に囲まれ、こちらも幸せな気持ちに。
- ▼中津の文化に触れ、子育ての大事さを改めて実感。